



あけと和枝

—市議会報告—

篠田「事業仕分け」は、小泉構造改革路線と同じ いのち・教育・暮らし切捨てる流れにストップを

篠田市長は2年前の事業仕分けで、公民館、老人憩いの家、学校開放の有料化、そして、紙おむつ支給事業などの削減を強行実施しました。市民のささやかな願いさえ切り捨てたのです。今回、市独自施策や制度、合併時の住民サービスに差があるものなど18事業を対象にする内容になっています。

除雪対策事業や自治会等防犯灯補助金、こども放課後支援事業や学校給食関連事業、路線バス・区バス・住民バス運行費補助金、各種がん検診など直接市民のいのちや暮らしにかかわりのある大切な事業です。1つの事業をわずか50分の時間で仕分けるのですから乱暴なやり方です。長年、市民の要求で積み上げられてきた施策や事業が切り捨てられるわけには行きません。市民にとって効果のあるいくつかの事業について紹介します。今回、がん健診についてお知らせします。

日本一の健診制度 いつでも、どこでも

川上市政当時「老人医療と健診の充実、がん健診の充実、健診料金の引き下げ」を求め、医療関係者の声にこたえて、健診項目の拡大や受診しやすい料金の設定・方法など医師会をはじめ医療関係者との協議をえて、60歳以上費用の軽減や腰・膝のX検査・聴力検査項目の拡大ができたのです。

この制度は、市民の側で医療機関も日程も選択ができませんし、健診の結果すぐに治療できる利点があります。病気の早期発見、早期治療の効果抜群と関係者から好評です。

5年生存率の差

新潟県は風土的に胃がんの発症が高く、食生活の改善・減塩運動とともに医療機関の体制整備が急がれ、全国に先駆けて1961年（S36年）県立がんセンター新潟病院が設置されました。

全国と主要政令市の
がん検診におけるがん発見率（% H21年度）

	胃がん	大腸がん	肺がん	乳がん	子宮頸がん
全国	0.17	0.21	0.06	0.32	0.07
新潟	0.56	0.40	0.10	0.42	0.20
札幌	0.12	0.16	0.02	0.30	0.05
千葉	0.19	0.17	0.02	0.24	0.02
横浜	0.12	0.35	0.19	0.33	0.69
浜松	0.08	0.15	0.03	0.14	0.00
京都	0.15	0.21	0.03	0.25	0.09
大阪	0.19	0.33	0.04	0.30	0.13
堺	0.21	0.15	0.01	0.17	0.07
神戸	0.16	0.32	0.05	0.28	0.06
福岡	0.33	0.48	0.15	0.42	0.14

資料は平成21年度地域保健・健康増進事業報告概要などから。
新潟、福岡は胃内視鏡検査(GTF)

病気の早期発見・早期治療の効果では、胃がん患者さんの5年生存率は、検診を受けた人が90・8%に対し、受けなかった人は51・5%（H17年度標準集計）と大きな差が見られます。

医学の日進月歩で、早期発見・治療がスムーズな場合、がんは怖くない時代になったようです。

発見率3倍に
H21年度、がん健診における発見率は全国平均の胃がん0・17%に対し新潟市0・56%と3倍と高く、子宮頸がん、肺がんなどいづれも高くなっていくのが特徴です。年をとれば当然病気になることが多くなります。40歳以上の受診率10%ですが60歳以上が30%と断然高くなっています。健康で長生きしたいと思うのは誰もの願い。「日本一健康都市」に近づくためにも日本一の健診制度を大切にしていきましょう。

「非核平和都市」 新潟市が果たすべきこと



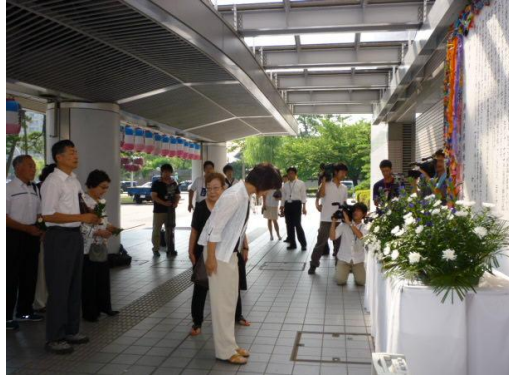
8月6日、市役所前において、市・「原爆被害者の会」などが主催した原爆犠牲者追悼式が行われました。広島に原爆が投下されてから67年が経過。あの日の8時15分も今日のように暑かったのだろうかと思いつつ、原爆により亡くなった方々に心から安らかにと祈りました。

新潟市は市町村合併した、2005年10月10日に「非核平和都市宣言」をしました。その宣言文の中には、「新潟市は、広島・長崎と並ぶ原爆投下予定地の1つでした。原爆を怖れ市民が一斉避難した日もありました。」と記されています。

もし、天候が良かったなら、わたしたちがいま住んでいる新潟に、原爆が落とされたのかもしれない。そのことを思うとぞつとします。

核兵器のない平和な日本、そして世界を一日も早く実現しなければなりません。

忌まわしい福島原発事故から1年が経過しました。いま



なお放射能汚染の被害の全容はつかめていません。新潟市をはじめ全国各地に避難している福島の人たちの苦しみと怒りは他人事ではありません。二度と危険な原発事故を起こさないためにも、原発をゼロにする必要があります。

非核の宣言をした新潟市として、核兵器のない平和な日本・世界のために、危険な原発をなくすために、行政も市民も力を合わせることを求められます。

「内野駅周辺整備事業」 説明会開かれる

去る7月24日、内野駅周辺整備事業の地元説明会が開催されました。説明会には、新潟市西部地域土木事務所建設課、西区建設課、JR新潟支社が出席し(1)全体事業計画(2)H27年度までの全体スケジュール(3)施設計画(4)作業計画・仮設計画の説明が行われました。参加者からの質問、要望意見などが出されましたので主な点について報告します。

Q 駅前交番はどこに移転するのか

A 大口屋さん側の現駐車場に移転

Q 市営住宅前の一方通行と四つ角から駅前広場に進入するバスや車がスムーズに流れるのか疑問。渋滞が心配。

A 地元とよく協議したい

Q 前から要望してきた、自由通路取り付け階段にスロープを設置して欲しい。災害時、避難用に車椅子やリヤカーを運行する必要があるので是非検討を。

A 建築基準で8度以下の斜度でなければならぬ。距離がないので無理。

Q 南の階段は無理なら、ホームに沿った西の階段を

A 延長してもスロープをつくって安全・安心を確保していただきたい。
A 明確な回答なし

Q 北側スロープについて学校関係者、PTAとの合意が前提となるが、どういう経過なのか明らかにして欲しい。

A 昨年H23年度に600名以上のPTAに説明会の案内を出したが2名の参加でした

Q この事業の目的の1つの柱は、バスを乗り入れさせてJRとのアクセスを良くし公共交通の結節点の機能を高めるために駅前広場を整備するとしています。説明では、内野四つ角には5路線のバスが運行されていますが、バス

運行の見通しはどうなっているのでしょうか。5路線が全て乗り入れるのかどうか。ダイヤは一日に何本になるのか。新潟市はこれまでバス会社には申し入れていないという説明しかありません。この秋には仮駅舎着手との説明ですが20数億円かかる事業なのにいまもって明快な説明がないのはおかしい。事業着工前迄にバス会社との協議を整えてからにして欲しい。
A バス会社と協議する

この事業はH24年から27年度の継続事業で総額21億円を見込んでいます。内訳は、橋上駅舎約6億円(JR負担は7%のみ)自由通路約7億円、駅前広場約4億円、北側スロープ約4億円です。説明会当日だされた質問はもつともな内容です。市民の税金を使う以上、バス運行計画の見通しがないまま着工することとは問題です。しかも学校関係者、PTAなどとの合意が整っていないことも市の説明であきらかになりませんでした。この事業が住民の納得と合意が整うよう力を尽くしたいと思えます。